

「ことばの教育」パイロット校事業 報告書

学校名	世羅町立世羅中学校
校長名	時永 益徳
所在地	世羅郡世羅町寺町961番地2
HP	http://www.edu.town.sera.hiroshimajp/sera-jhs/index.htm
学級数	9
タイプ	・ ○

1 研究の概要

(1) 研究主題

確かな学力と豊かな心を育てる授業の創造
～書く活動を通して思考力を高める～

(2) 研究のねらい

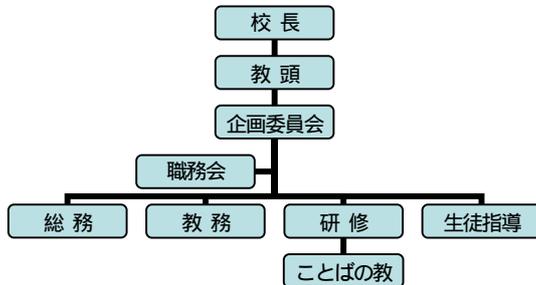
ねらい
書く活動を通して、思考力を高める。

本校における「思考力」とは
根拠を明確にして、物事を考え、判断する力
各教科の思考力・判断力
自分とのかかわりで道徳的価値をとらえる力

本校における「書く活動」とは
「言語技術」を活用して自分の考えやその根拠を書き表すこと。

(3) 研究組織・体制

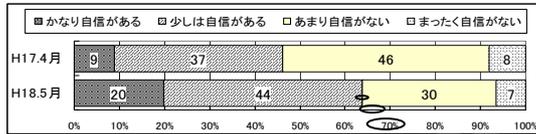
「ことばの教育」パイロット教員を研修部に位置付け、校内体制で取り組んでいった。



2 2年間の取組みの概要

(1) 課題

自分の考えを文章にまとめることへの自信がない

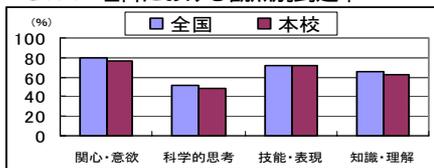


調査日：H17年4月、H18年5月
調査対象：全校生徒

肯定的な評価は6.4%

他の観点に比べて思考力の観点の到達率が低い。

CRT 理科における観点別到達率



調査日：H17年4月 調査対象：2年生97人

科学的な思考の
得点率が低い

(2) 研究仮説

全教科において「言語技術」を取り入れ、書く活動を仕組めば、思考力が高まるであろう。

(3) 研究内容

全教科で「言語技術」の活用と書く活動の充実
全教科で思考力を育成する授業モデル(学習段階・言語技術・書く活動の関連)の導入
指導事例集の作成

(4) 授業改善の視点

世羅中学校授業モデル
思考力を高めるためには、問題解決的な学習が基本であると考え、問題解決的な「学習段階」、活用する「言語技術」、さらに、「書く活動」の3つを関連させた、「世羅中学校授業モデル」を設定して、全教科で取り組んだ。

～思考力を育成する授業モデル(学習段階・言語技術・書く活動の関連)～

学習段階	言語技術 主に何が使えるか	書く活動
課題設定	教師：課題提示 必要な知識や情報の提示 発問...(理由や根拠を問う) 生徒：課題発見・課題把握 (なぜ...、どうして...)	気づきや考えをメモ、箇条書きにする。
個人思考	教師：主な発問、実態把握、評価支援 必要な知識や情報の再提示 生徒：課題解決のために自分で考える 自分の考えや根拠を整理し、ノートやワークシートに書く	分ること、自分の考えやその根拠を書く。(メモ、文章、箇条書き)考えを基に図や絵、音符、スケッチ等を描く。
集団思考	生徒：課題解決のために考え合う お互いの考えを交流する 自分の考えと他者の考えを比較検討し、深める 教師：主な発問 補助発問で練り合い深める (拡大、焦点、分類、法則、独立)	よい意見や考えをメモする。 考えをもとに図や絵等を描く。
まとめ	教師：実態把握、評価支援 生徒：自分の考えを整理し、学習内容をまとめる キーワードを用いた説明や図、短文を書く	学習により分ったことや確認したこと、キーワードを用いて文章にまとめる。 図やグラフ、作品を完成させる。

3つの「言語技術」の活用

各教科の特質をふまえて、教科で活用できる「言語技術」は主に次の3つであると考えた。

(国語科と英語科を除く教科)

ア「様々な角度から物事を見る技術」

イ「情報を的確に分析する技術」

ウ「受け答えをする技術」

特に、集団思考の意見交流の場面においては、「受け答えをする技術」が有効であり、発言時には「3ポイント発言」

(つなぐ、結論、理由)に取り組んだ。

3ポイント発言

- ① つなぐ
- ② 結論
- ③ 理由

世羅中学校における「書く活動」

ア 思考するためにかくもの
 イ 思考のために整理し、まとめるためにかくもの
 ウ 考えたものを、表現するためにかくもの
 例：文章、簡書書き、メモ、絵、図、表、グラフ、スケッチ、音符、マンガ

世羅中学校における「補助発問」

補助発問の種類としては、次の5つを考えている。
 拡大...他の考えに気づかせる。
 焦点...ねらいに迫らせる。より効果的・効率的なもの、よりふさわしいものにしぼり込ませる。
 分類...グループ分けをさせる。
 法則...きまりや法則、共通性を見つけさせる。
 独立...1つ1つの考えのよさを認めさせる。

指導案や授業展開例の様式の統一

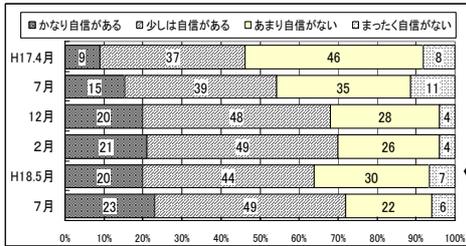
授業モデルの各段階において、主にどの「言語技術」を活用するかを明記する。
 授業展開の中に、どのような「書く活動」を設定するかを明記する。

3 研究の成果と課題

(1) 検証

全教科で「言語技術」を取り入れ、書く活動を導入
 9教科中 9教科(100%)導入

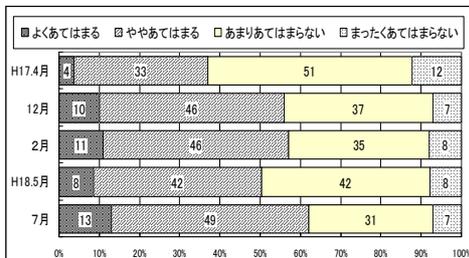
書くことに自信がもてるようになった生徒



調査日：H17年4月～H18年7月 調査対象：全校生徒

肯定的評価 昨年度からは26%
 今年の5月からは8%アップ

③ 3ポイント発言を意識して話したり聞いたりできる生徒



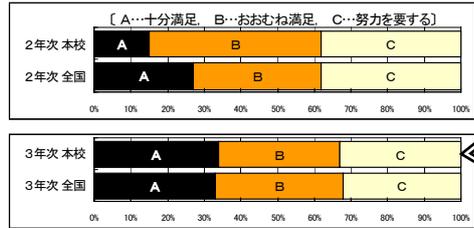
調査日：H17年4月～H18年7月 調査対象：全校生徒

62%が3ポイント発言を意識しているが、まだ不十分である

各教科における思考力アップ

各教科で思考力の高まりが見られる。

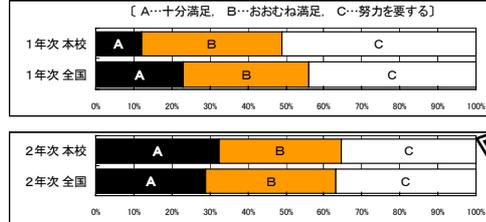
CRT 社会科 社会的な思考・判断の到達率の変化



A+Bが5%アップ
 A評定が19%アップ

調査日：H17年4月、H18年4月 調査対象：3学年 72名

CRT 理科 科学的な思考の到達率の変化

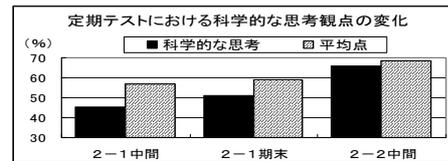


A+Bが15%アップ
 A評定が20%アップ

調査日：H17年4月、H18年4月 調査対象：2学年 97名

科学的な思考観点の伸び

科学的な思考の到達率が高まり、平均点との開きが小さくなってきた。このことから、科学的な思考力が高まってきていると考えられる。



科学的な思考が高まってきている

調査日：H18年 調査対象：2学年 97名

全教科で指導事例集の作成

計画に基づいて作成中

集団思考における生徒の思考力の高まり

授業記録より検証した結果、高まりが見られた。

(2) 成果

- ① 全教科で問題解決的な学習を展開し、「言語技術」を取り入れた書く活動を仕組むことは、思考力の育成に有効である。
- ② 世羅中学校授業モデル(学習段階・「言語技術」・書く活動の関連)の導入は、思考力の育成に有効である。

(3) 課題

- ① 有効な「言語技術」の基礎・基本の習得のために、トレーニングが必要である。
- ② 全教科で、問題解決的な学習展開による、「言語技術」を取り入れた書く活動と交流活動の充実を図る必要がある。

(4) 今後の改善方策等

- ① 「言語技術」の基礎・基本を習得させるために、トレーニングをする時間を確保する。
- ② 問題解決的な学習の研修を行い、交流場面における3ポイント発言の定着を図る。